

IX. 施設で働く専門職の自立概念の認識についての調査

自立概念にはさまざまな定義がありますが、専門職として、あなたは、以下の質問についてどのようにお考えですか。回答選択肢の中からお答えください。

なお、質問項目における自立の定義は、以下に示したものがその全てではありません。また、これらの質問は、自立に関するあなたの考え方と一致・不一致であるということとは問われません。

1	2	3	4	5
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

身辺自立について

1. 身辺自立とは、日常生活（掃除・洗濯など）において他人に依存しないことである。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

2. 身辺自立とは、自分にとって必要かつ適切なサービスを介護人に依頼できるようになることである。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

3. 身辺自立とは、必要で適切な介助を受けて快適な生活を送ることである。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

心理的・精神的自立について

1. 心理的・精神的自立とは、自己決定と自己選択が自分自身でおこなえるようになることである。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

2. 心理的・精神的自立とは、自己決定と自己選択の結果に責任が取れるようになることである。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

3. 心理的・精神的自立とは、生活のために必要な介助を利用しているにもかかわらず、自らが生活様式の決定を行えるようになることである。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

4. 心理的・精神的自立とは、自己決定を待たず、専門職などが決定してしまうことをできるだけ避けることである。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

1 2 3 4 5
 その思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらともいえない
 どちらかといえばそう思わない
 その思わない

5. 心理的・精神的自立とは、納得できないことに対して拒否する態度を示すことである。

1 2 3 4 5

6. 心理的・精神的自立とは、他者との依存的ではない良好な人間関係を構築することである。

1 2 3 4 5

7. 心理的・精神的自立とは、家族へ依存的にならないことである。

1 2 3 4 5

経済的自立について

1. 経済的自立とは、安定した職業に就くことによって、経済的に他に依存しないことである。

1 2 3 4 5

2. 経済的自立とは、経済的な安定のために社会保障制度を適切に利用することである。

1 2 3 4 5

3. 経済的自立とは、就労できなくとも、生活費を自主的に管理できるようになることである。

1 2 3 4 5

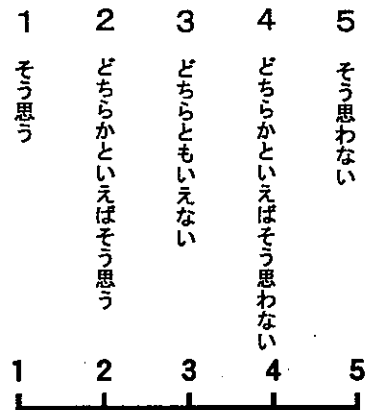
社会的自立について

1. 社会的自立とは、自分自身を取り巻く人々や社会から、価値ある者として受け入れられるようになることである。

1 2 3 4 5

2. 社会的自立とは、自らの存在を、価値ある者として感じていることである。

1 2 3 4 5



3. 社会的自立とは、自らの生活に影響を受ける諸政策、制度・サービスを選択することである。



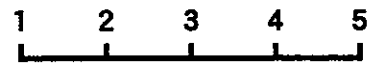
4. 社会的自立とは、自らの生活に影響を与える政策やサービスの計画立案、決定、管理運営の過程に参加することである。

生活スタイルにおける自立について

1. 生活スタイルにおける自立とは、自分に合った生活スタイルを決定することである。



2. 生活スタイルにおける自立とは、自分で自分の生活の場を維持していることである。



3. 生活スタイルにおける自立とは、生活の質を向上させるために生活の状況を改良し、適切な生活を創り出すことである。

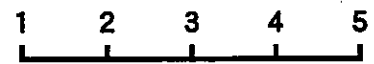


4. 生活スタイルにおける自立とは、親との同居や施設での生活ではなく、アパートなどを借りるなどして独立した生活を送ることである。

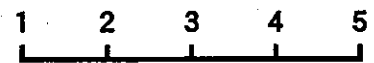


自己実現としての自立について

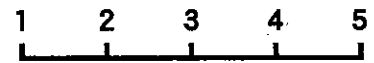
1. 自己実現としての自立とは、一個人として生活・人生の主人公となることである。



2. 自己実現としての自立とは、自らの生活の主体者として自己形成を行っていくことである。



3. 自己実現としての自立とは、生活を自ら決定し、制御し、充実した自己の実現を求めて努力することである。



1 2 3 4 5
 そう思う どちらかといえばそう思う どちらともいえない どちらかといえばそう思わない そう思わない

4. 自己実現としての自立とは、主体的に自己の生活を形成し、自己実現をはかっていこうとすることである。

1 2 3 4 5

5. 自己実現としての自立とは、地域社会の中で生活し、さまざまな社会活動に参加していくことである。

1 2 3 4 5

6. 自己実現としての自立とは、個人の役割が尊重され、質の高い生活を送る機会が与えられることである。

1 2 3 4 5

X. 新しい自立観の認識について

自立観は、1970年代以降の自立生活運動の影響を受け、職業的更生や経済的自立を意味するところから、主体的に自己の生活を形成し、自己実現をはかっていくことであるという新しい考え方が生まれてきています。

では、この新しい自立観は、障害者福祉という枠内にとどまらず、一般社会においてもその有効性があると思いますか。回答選択肢の中からお答えください。

この質問は、自立観に関してあなたの考え方の正否を問うものではありません。

1 2 3 4 5
 そう思う どちらかといえばそう思う どちらともいえない どちらかといえばそう思わない そう思わない

1. 新しい自立観は、障害者福祉の枠内においてのみ有効である。

1 2 3 4 5

2. 新しい自立観は、障害者福祉の枠から離れ、一般の社会の枠内においても有効である。

1 2 3 4 5

質問は以上です。貴重なお時間を割いていただき、ありがとうございました。

平成16年度 厚生労働科学研究費補助金

障害保健福祉総合研究事業

障害者プラン（障害者基本法第7条の2に規定される障害者基本法を
具体化するための重点施策実施計画）、それに基づく行政サービス等の
評価指標に関する研究・総括研究報告書

主任研究者：坂口 正之

発行：平成17年3月30日